

なかやま しちり

中山七里氏 作家デビュー15周年

人気シリーズ最新作『いまこそガーシュウィン』文庫版 8/5発売

短編集『中山七里 短いお話ほぼ全部』も好評販売中！

今年、作家デビュー15周年を迎えた中山七里氏の著書『いまこそガーシュウィン』の文庫版を、2025年8月5日（火）に発売します。また、2025年6月に発売した中山氏の既刊書籍未収録作品をまとめた『中山七里 短いお話ほぼ全部 短編&掌編&エッセイほぼ全仕事！』も売れ行きが好調です。

累計185万部突破！“岬洋介シリーズ”人気作、待望の文庫化！



本書は、ピアニストの岬洋介が周囲で起こる事件を解決する、人気推理小説シリーズの最新作『いまこそガーシュウィン』の文庫版です。2022年10月から電子書籍限定で連載した『このミステリーがすごい！「いまこそガーシュウィン」vol.1～4』を、2023年9月に書籍化。中山氏のデビュー作でもある『さよならドビュッシー』から続く本シリーズは累計185万部を突破しました。

文庫版帯に寄せられた人気漫画家の石塚真一氏、ピアニストでクリエイターの菊池亮太氏のコメントもお見逃しなく！

【あらすじ】

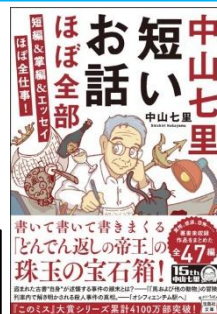
アメリカで指折りのピアニスト、エドワードは、大統領選挙の影響で人種差別が激化し、変貌しつつある国を憂い、音楽で何かできないか模索していた。そこで、3カ月後に予定しているカーネギーホールでのコンサートで、黒人音楽を愛した作曲家、ジョージ・ガーシュウィンの名曲「ラプソディ・イン・ブルー」を弾くことを思い立つ。しかし、マネージャーがガーシュウィンでは客を呼べないと反対したため、ショパン・コンクール中に演奏で人命を救い、一躍有名になった男、岬洋介との共演を取り付けることにした。一方、新大統領の暗殺計画を進めていた〈愛国者〉は、依頼主の男から思わぬ提案をされ――。音楽の殿堂、カーネギーホールで流れるのは、憎しみ合う血か、感動の涙か。

『いまこそガーシュウィン』文庫版
発売日：2025年8月5日
定価：803円（税込）

作家デビュー15周年を飾る、中山氏の未収録短編集も必見！

本書は、毎月新刊を出し、複数の雑誌連載を抱え“執筆マシン”とも呼ばれる中山氏の未収録作品をまとめた短編集です。古書の一人称によって語られるユニークな短編から小説、エッセイ、ツイストの効いたショートショートまで、短くても読み応えのある47編を収録。さらに、自作解説までも併録した傑作コンプリートブックです。作家デビュー15周年を飾る、多彩な中山七里ワールドをギュッと凝縮したファン必見の一冊です。

『中山七里 短いお話ほぼ全部 短編&掌編&エッセイほぼ全仕事！』
発売日：2025年6月4日／価格：1210円（税込）



中山 七里（なかやま しちり）取材・テレビ出演可能です！

1961年、岐阜県生まれ。『さよならドビュッシー』にて第8回『このミステリーがすごい！』大賞・大賞を受賞し2010年デビュー。ほかの著書に『いまこそガーシュウィン』『連続殺人鬼カエル男』『総理にされた男』『護られなかった者たちへ』『境界線』（以上、宝島社）、『能面検事』（光文社）『氏家京太郎、奔る』（双葉社）、『棘の家』（KADOKAWA）、『ヒポクラテスの困惑』（祥伝社）、『作家刑事毒島の暴言』（幻冬舎）、『彷徨う者たち』（NHK出版）など多数。